

市民環境大学OB会 ニュースレター



第20号 2018年5月17日 発行

黒川清流公園 クヌギの若葉

今年の冬は異常気象？

2018年1～2月は関東地方でも今までにない最低気温の日が記録されたのはまだ記憶に新しいところ。OB会でも3月の定例会にて飯島会長が実際のデータを示して報告されました。今回のニュースレター20号では少し季節外れの感はありますが、この異常気象ともとれる低温をテーマに取り上げます。

まずは飯島会長から2013年から2018年の1、2月の具体的なデータで報告頂きましたので紹介します。飯島会長は自宅付近で約30年にもわたって継続して気温測定をされており、今回はその大変貴重なデータのごく一部となります。そのあと続けて顧問の小倉先生には気象解説を含めたコラム、OB会員の原田さんにも異常低温について投稿頂いたのを掲載します。

投稿 「今年の冬はどうでしたか？」

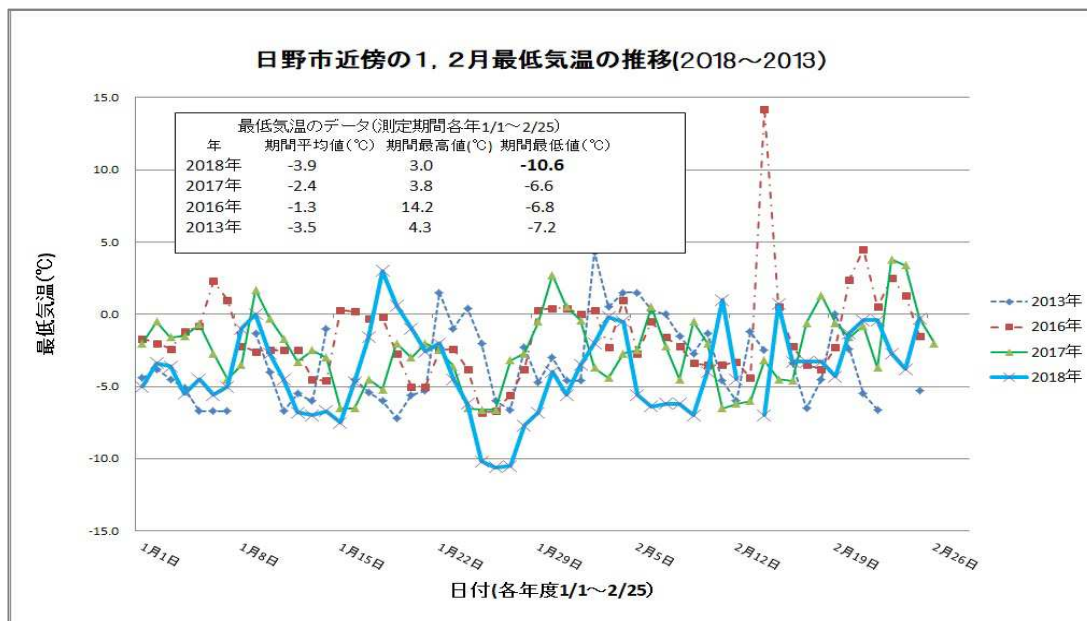
飯島 利三

ことしの冬は寒い、例年にない寒さだということばをよく耳にしました。そこで、ここ数年間の1、2月の最低気温を手元の記録をもとに比較してみることにしました。その結果は下の図表通りです。ただし、グラフの都合で2月は25日までとしました。また、温度計の目盛りは1度(°C)目盛りなので、その間を目測で10等分して、小数点以下に表示しました。例えば、水銀柱が1°Cと2°Cのほぼ中央に位置していたら1.5°Cとしました。

さて、下の図表を見てください。本年の最低気温の平均は-3.9°Cです。2017年は-2.4°C、2016年は-1.3°C、ちょっと飛んで2013年は-3.5°Cです。いずれも今年を下回る平均気温はありません。昨年、一昨年と期間平均で1.5°C以上の差があることは人間の感覚としては相当強く体感として受け止められるものと思います。

また、身近な方からミカンの葉が枯れたとの情報をもらいましたが、我が家の庭木のミカンも同様に葉が相当枯れて落ちてしまいました。さらに、自慢のグレープフルーツ（地上50cmで太さ一周30cm位の樹高約4mの大木）の樹幹からも枯葉が落ちはじめ枯死しそうです。矢島稔先生からいただいて10数年元気に越冬してきました。数年前からはようやく収穫できるようになった矢先でとても残念です。

このように我が家のグレープフルーツはじめ、他の柑橘類の低温障害を決定づけたのは1月25日からの3日間、連続して最低気温が-10°C以下となり、地温の大幅な低下を招いたのが大きく影響したものと考えます。柑橘類の根の張り方はアカマツのように牛蒡根(垂直根)だけに依存せずに、地表の浅いところで同心円状に根を伸張させていますが、寒さで毛細根が壊されてしまったものと思われる。今年とはとにかく寒い冬であったように思います。



[OB会コラム]

投稿

「2018年の冬は寒かった！」

小倉 紀雄

2018年1月末から2月初旬にかけて強い冬型の気圧配置が続き、北日本から西日本の広い範囲で寒波に襲われた。気象庁の各所観測所では、「観測開始から初めての寒さ」や「数年ぶりの寒さ」等が記録された。

- 1月22日 首都圏で大雪となり、気象庁千代田区の観測所(北の丸公園)で23cmの積雪で4年ぶりに20cmを超えた。
- 1月25日 都心の千代田区観測所で-4℃となり、1970年以来48年ぶりの寒さとなった。この日に東京都府中観測所では-8.4℃を記録し、1976年の観測開始から最も低い気温となった。
- 1月27日 東京都青梅観測所では-9.3℃となり、1976年の観測開始から最も低い気温となった。
- 1月28日 東京都桧原村の弘沢の滝(日本の滝百選の一つ)が完全結氷した。完全結氷は2006年以来で、過去25年間で3回目となった。
- 1月30日 茨木県太子町の袋田の滝(日本3名瀑の一つ)が9割ほど結氷し、2012年以来の現象となった。
- 2月 2日 長野県諏訪湖で「御神渡り」が5年ぶりに見られた。
- 2月 4日 北陸地方に大雪が降り続き、福井市では2月7日に最深積雪は147cmとなり、1981年の「56豪雪」以来、37年ぶりの大雪となった。
- 2月13日 東北地方も大雪で、山形県大蔵村折衝観測所で統計を取り始めてから最深の445cmを記録した。

このような寒波は北米から北欧にかけても発生し、ラニーニャ現象(注)の影響と考えられている。また1997年から1998年にかけてエルニーニョ現象(注)が起こり暑い夏であった。このように数年ごとに地球規模で異常な天候が起こっているが、この100年規模で見ると温暖化傾向にあると考えられる。

(注) ラニーニャ現象：太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が低い状態が続く現象で、反対にエルニーニョ現象は同じ海域で海面水温が高い状態が続く現象で、それぞれ数年おきに発生する。ひとたびこのような現象が発生すると日本を含め世界中で異常な気候になると考えられている。



日野市平山の雪景色 1月23日朝

投稿

「冬の出来事」

原田 武司

今年の冬は寒かった。歳のせいばかりではなく、我が家の一月の暖房費が突出していたのをみても明らかだ。屋内の水道の蛇口が凍結して午前中洗濯ができなかった日が数日続いた。日野台に住んで七十年以上かかってなかったことだ。4年ぶりの大雪の後も真冬日の連続でいつまでも残雪に悩まされた。雪国の人からは揶揄されそうだが年々雪掻きがしんどくなってきたので前回の大雪後、北海道の人からヤフオクで譲りうけた電動除雪機も東京の湿った雪には歯が立たず物置に眠った儘だ。週間天気予報の雪マークに融雪剤の購入を一日躊躇ってホームセンターへ駆け込んだがすでに完売、後れを取ったおかげで腰痛が再発した。さらに明け方に凍りついた我が家の駐車場でガスの検針員ともども転倒。幸い大事には至らなかったが散々な目であった。

これも温暖化のなせる業か他にも巨大火山噴火・隕石の衝突、果ては核戦争と地球を取り巻く状況は厳しい。あらゆる天変地異に備えるのは無理としても地球を滅ぼすものの正体だけは見極めておきたいといま市民環境大学に足を運んでいる。

OB会メンバー 活動イベントニュース

- OB会フィールドワークの案内 5月17日OB会は豊田湧水・用水から浅川までをめぐる散策を予定
- 6月実施 全国水質検査 参加予定者に測定キット配布の案内 全国一斉実施予定日は6月3日(日)
- 日野市真堂が谷戸でホテル観察会 6月24日(日) 19時半~21時 現地集合

OB会 輪読報告 題名 森林飽和 著者 太田猛彦

3月 第三章 森はどう破壊されたか 一 劣化の始まり

4月 第三章 森はどう破壊されたか 二 産業による荒廃の加速

発行人：市民環境大学OB会 飯島利三 編集担当：OB会 尾添俊二